

外国語科学習指導案

徳島県立〇〇高等学校
指導者 〇〇 〇〇

- 1 履修単位数 4単位
- 2 実施日時 令和5年10月26日(木) 第4時限
- 3 学 級 25HR(36名)
- 4 使用教科書 Power On English Communication II(東京書籍)
- 5 単 元 名 Lesson 5 Design for Connecting Society: Braille Neue
- 6 本単元で扱う領域における「CAN-DOリスト形式」による学習到達目標(2年次)

聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと
身近な社会問題について、必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができる。	身近な社会問題について、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができる。	身近な社会問題について、聞いたり読んだりしたことを基に、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝え合うことができる。	身近な社会問題について、聞いたり読んだりしたことを基に、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができる。	身近な社会問題について、聞いたり読んだりしたことを基に、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく書いて伝えることができる。

7 単元設定の理由

○教材観

本単元は、ブレイルノイエという点字フォントについて知ることで、障がいをもつ人とたない人をつなぐコミュニケーションツールとしてのユニバーサルデザインに関心をもたせる内容となっている。未知のものについての情報を英語で読み取り、概要や要点を捉える力を養うことができるとともに、社会問題解決の糸口となるものや行動について、生徒に考えさせるきっかけになると考える。

○生徒観

本学級の生徒は、真面目で、日頃から英語の授業に積極的に取り組み、ペアワークなどの活動にも非常に前向きである。日々の言語活動を通して、日常的な話題について書かれた英文は、情報を整理する力が少しずつ身に付いてきた。しかし社会的な話題について書かれた英文の概要や要点を捉えて理解する力は不十分である。また、テーマについて自分の考えを表現するまでには至っていない。本単元では、必要な情報を読み取って概要や要点を捉える力を養うことを目指し、自分の考えとともに伝えることにも取り組ませたい。

○指導観

本単元は、ブレイルノイエ開発の経緯や利点、可能性について書かれた説明文とインタビュー記事から成る。「読むこと」に焦点を当てた指導と位置付け、説明文やインタビュー記事から抜き出したキーワードを活用し、ペアやグループで読み取った内容を伝える言語活動を通して、概要や要点を捉える力を身に付けさせたい。また、読み取った内容に対する自分の考えを伝える活動も取り入れたい。

8 単元の目標

ユニバーサルデザインに関する説明を読んで概要や要点を捉え、読み取ったことを自分の考えとともに伝えることができる。

9 単元の評価規準(「読むこと」の評価規準)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<知識> - 文章を読み取るために必要となる語彙や表現、if節やthat節の意味や働きを理解している。 <技能> - ユニバーサルデザインについての文章を読み取る技能を身に付けている。	ユニバーサルデザインについて紹介し、自分の考えを伝えるために、そのデザインについての説明文を読み、概要や要点を整理して捉えている。	ユニバーサルデザインについて紹介し、自分の考えを伝えるために、そのデザインについての説明文を読み、概要や要点を整理して捉えようとしている。

10 指導と評価の計画（7時間）

時間	ねらい（■）、言語活動等（丸数字）	評 価			備 考
		知	思	態	
1	■単元の目標を確認する。 ■説明文の概要や要点を捉える。 ①写真を見ながらブレイルノイエについて描写し、考えたことや疑問に思ったことをペアで伝え合う。 ②点字について知っていることを共有する。 ③ブレイルノイエについて詳しく知るための質問を考える。 ④③で考えた質問の答えを見つけるために、教科書のPart 1を読む。また、教師からの質問に答える。 ⑤ブレイルノイエに対する自分の考えをペアで伝え合う。	行う。 て生徒の活動の状況を見届けて指導に生かすことは毎時間	一斉に記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して	一斉に記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して	・単元を通して学習の振り返りは適宜行わせる。
2 ～ 4	■インタビュー記事の要点を捉え、説明文に書き換える。 ①教科書Part 2からPart 4のインタビュー記事を読み、それぞれキーワードを抜き出す。 ②キーワードを見ながら、インタビューの質問項目に対する答えを整理し、自分の考えとともにペアで伝え合う。 ③グループに分かれ、キーワードを共有しながらインタビュー記事を端的な説明文に書き換える。 ④モデル文と比較して、要点を論理的に相手に伝える構成を確認する。				
5	■ブレイルノイエを知らない人に説明するために、要点を自分の考えとともにまとめる。 ①前時までに書いた説明文を、改善点も踏まえながら組み合わせる。 ②教科書の説明文やインタビュー記事に書かれていること以外の、ブレイルノイエの利点や活用方法を考え、説明文に加える。 ③グループ内で各自が書いた説明文を読み合う。 ④他のグループの生徒の説明文を読み、感想を述べたり、内容や構成、表現について質問したりする。		○	○	・タブレット端末にワークシートを配付し、①、②の記載状況から「思考・判断・表現」を評価する。あわせて、「主体的に学習に取り組む態度」も評価する。
6 ～ 7	■ユニバーサルデザインに関する初見の説明文を読み、概要や要点を捉える。 ■説明文で提示されたユニバーサルデザインの利点や活用方法について、グループで意見をまとめる。 ①動画を見ながら新たなユニバーサルデザインについて描写し、考えたことや疑問に思ったことをペアで伝え合う。 ②提示されたユニバーサルデザインについて詳しく知るための質問を考え、全体で共有する。 ③説明文を読み、②で共有した質問の答えをペアで伝え合う。 ④全体で答えを確認する。 ⑤4人グループに分かれ、提示されたユニバーサルデザインの利点や活用方法について考えを伝え合う。 ⑥グループで1分プレゼンテーションをまとめ、発表の練習をする。 ⑦全体に向けてグループごとにプレゼンテーションをする。	ねらいに即して生徒の活動の状況を見届けて指導に生かすことは毎時間行う。	一斉に記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して	一斉に記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して	・本単元の評価規準に照らして観察し、説明文を読み取る方法について適宜確認し、フィードバックを行う。
後日	ペーパーテスト ユニバーサルデザインに関する説明文を読み、概要や要点を捉え、自分の考えを伝える。				

11 本時の活動（第6時）

(1) 目標

ユニバーサルデザインに関する説明文を読み、概要や要点を捉えるとともに、その利点や活用方法について考えを伝え合う。

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における具体的評価規準	評価方法
2分	1 挨拶をし、本時の目標を聞く。	・板書した本時の目標を全員が理解できるよう、伝える。		
To grasp the main points of the expository passage of a universal design, and think about its advantages and how to use it.				
7分	2 ペアで電子黒板に提示された動画を見て、see think wonder を行う。	・提示された動画からわかること、考えられること、疑問に思うことを伝えるよう指示する。		一斉に記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を見届けて指導に生かすことは行う。
5分	3 提示されたユニバーサルデザインについて詳しく知るための質問をMetaMoj ClassRoom の共有シートに入力する。	・要点を問うような疑問文を抽出し、全体に共有する。		
10分	4 説明文を読み、グループで質問に対する答えを伝え合い、MetaMoj ClassRoom の共有シートに入力する。	・全体で共有した質問に対する答えを読み取らせる。 ・MetaMoj ClassRoom に入力させる。グループで1枚のシートを利用し、ともに答えを考えるよう伝える。		
8分	5 全体で答えを確認する。	・MetaMoj ClassRoom のモニター画面から確認し、適切な応えが記入できているペアに発表を促す。		
10分	6 4人グループに分かれ、読み取った説明文に書かれたユニバーサルデザインの利点や活用方法について、考えを伝え合う。	・グループで考えを伝え合うために、表現の確認を行う。 ・次回1分プレゼンテーションを行うことを伝える。		
3分	7 説明文の読み取り方についてまとめを聞く。	・説明文の読み取り方についてまとめる。		

1.2 評価及び指導の例（「読むこと」）

「十分満足できる」と判断される状況(a)	ユニバーサルデザインに関する説明文の概要や要点を捉え、そのデザインについての自分の考えを理由や根拠とともに伝えることができる。
「おおむね満足できる」状況(b)を実現するための具体的な指導	説明文の概要や要点を捉えるための質問を考えさせる。また、与えられた質問に答えることで、自分の考えを伝えることができるように指導・助言する。
「努力を要する」状況(c)と判断した生徒への事後指導	説明文を読む際に、読み取るべき項目を確認し、比較的短い説明文の読み取りを練習させることで、「おおむね満足できる」状況(b)を達成できるようにする。